

特集

PFAS 汚染

多摩地域の地下水は どうなっているの？

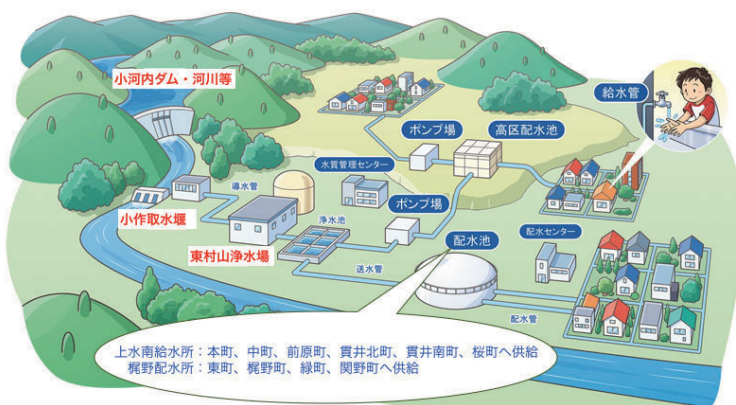
PFAS の環境汚染がいま問題となっています。これまでも、沖縄で米軍基地周辺の地下水汚染が問題となっていました。全国的には共有されていたとは言えませんでした。それが、最近の報道で多摩地域の地下水汚染が明らかになってきたことをきっかけに、他の地域での汚染実態についてもだんだんと私たちの知るところとなりました。

PFAS は有機フッ素化合物の総称。その一種の PFOS や PFOA など自然界で分解されず、人体に蓄積されると腎臓がんや免疫低下など健康被害のリスクがあるとして国際的に規制が進む。日本でも製造・販売が禁止され、2020 年には、暫定目標値として水道水や地下水中の PFOS・PFOA 合計値を 50 ナノグラム/L 以下と設定された。

そして私たちの住む多摩地域では、6/8 に発表された「多摩地域の有機フッ素化合物（PFAS）汚染を明らかにする会」実施の多摩 27 市町村、650 人の血液検査の結果によると、その半数以上が、健康被害が懸念される米国の指標値を超え、平均値では、2021 年に環境省が行なった全国 3 地点調査の約 2.4 倍の血中濃度が検出されるという結果でした。

小金井の水道水は？

まず気になるのは「私たちは今どんな水を飲んでいるの？」ということ。
小金井市民の使用する水道水について整理しましょう。



小金井市内への配水経路

政府広報オンライン「家庭で使う水は 어떻게 確保しているの？」
https://www.gov-online.go.jp/useful/article/201507/img/04_04b.jpg を加工して作成

現在、多摩地区のうち武蔵野市・昭島市・羽村市及び檜原村を除く 26 市町の水道事業は東京都水道局が運営しています。

東村山浄水場経由で配水される奥多摩の水道水水源林や多摩川の水に、上水南・梶野の 2 カ所の給水所で井戸水を揚水しブレンドしていたのですが、そのうち上水南給水所の水源井戸で水質管理暫定目標値（50 ナノグラム/L）を超えたため 2020 年からは揚水を停止しています。梶野給水所については目標値以下のため現在も地下水を揚水しており、2020 年調査による割合は 35% です。

実態の解明は まだ始まったばかり



参考図書：【著者】ジョン・ミッチェル（左）、
諸永裕司（右）

体内に取り込まれ蓄積された PFAS は摂取をやめれば半減期 3～5 年で血液中から減っていくといわれます。

多摩地域では管理目標値超えの汚染が確認された 11 浄水施設の水源井戸 34 力所からの水道水への地下水揚水が 2021 年までにストップしましたが、現在もお高濃度の PFAS が血中に検出されるとはということなののでしょうか？

実は、東京都水道局が管理する各給水所の水源井戸（※）のほかにも、個人・企業・学校所有の飲料井戸や農業用井戸、防災井戸など様々な井戸が使用されており、これらの検査については所有者に任されているのが実態です。

※都は飲料井戸の管理について指導を行いますが、PFAS は検査義務のある水質環境基準健康項目に入っていません。ただ経緯を見ていくものとして、令和 2 年度（2020 年）に PFOS/PFOA が要監視項目、令和 3 年度（2021 年）に PFHxS が要調査項目に位置づけられてはいます。

そんな状況に、小金井市でも市民が中心になって「小金井の水連絡会」が立ち上がり、3 月に有機フッ素化合物（PFAS）への市民の不安を解消するための早急な対策を小金井市、東京都・国に求める陳情を行いました。残念ながら付託されていた建設環境委員会、その後の本会議でも不採択となりました。同じ本会議で議員提案された東京都と国への「意見書」は賛成多数で可決されました。

小金井の水連絡会は「多摩地域の PFAS 汚染を明らかにする会」とも協働し、実態を市民に知らせ、まずは井戸水の測定がもっともっと多摩地域で進むよう活動を始めています。市民自治こがねいも連携して声ををあげていきたいと思います。

検査・調査で結果が判明し、汚染されていなければそれで安心するし、汚染がひどければ、飲用禁止も含め対策が必要になるからです。地域の地下水、土壌の PFAS 汚染の実態を検査し解明するのは、市民の健康やいのちに責任を持つべき一番身近な存在である自治体です。もっと動いてほしいものです。

浄水器通せば大丈夫？

多摩地域の住民の PFAS 血中濃度検査では、浄水器使用ありと答えた人の PFAS 濃度が若干低い傾向にありました。有機フッ素化合物は活性炭である程度除去できると言われますが、まずは浄水場での高性能設備による除去が基本です。環境省もフィルタリングと活性炭処理を組み合わせた技術の開発に向けて実証実験に入るようです。

うちのフライパン大丈夫？

こげつかなくて便利なフッ素樹脂加工のフライパンにコーティングされる最も一般的なフッ素樹脂は PTFE。PFAS とは別のものです。とはいえ PTFE を製造する際に反応助剤などとして PFAS の一種 PFOA が使用されていたことはあります。しかし、日本国内では 2013 年末までにフッ素樹脂製造時の PFOA の使用を完全にやめています。心配な場合は、表面にキズをつけないよう金属製のヘラを使わない、コーティングがはげかけたものは使わない、など工夫してみてくださいはいかがでしょうか。

関連情報

○ 東京都環境局 東京の地下水質調査結果



多摩地域の有機フッ素化合物（PFAS）汚染を明らかにする会



○ 東京都 PFAS 相談窓口

平日 9 時～17 時 電話 **03-5989-1772**

○ 小金井の水連絡会



FB ページ



公式 LINE



○ 東京都は 5 月 23 日に、国に対し「有機フッ素化合物対策の推進に関する緊急要望」を提出し、健康や環境への影響に関し情報を提供するように求めました。

小金井の水連絡会共同代表の山内美穂さんにインタビューしました



Q1 なぜこの問題にかかわるようになったの？

ネットメディアという私の仕事柄、沖縄での PFAS 汚染については知っていましたが、去年の11月頃、市民団体が血液検査をやるという東京新聞の報道に接し愕然とし、同時に、自分ごとにならないと目を覚まさないんだな、とハッとしました。すぐにその市民団体「多摩地域の有機フッ素化合物 (PFAS) 汚染を明らかにする会」に連絡し話をうかがいました。小金井在住27年だと伝えると「それは結構 (PFAS を含んだ水道水を) 飲んでいたかもですね」と言われ、ぎょっとしました。血液検査を申し込み、家族で受けました。

PFAS について記事、本、都や国のデータなど勉強し始めましたが、これが結構難しい。問題の全体像を理解し一緒にこの問題を考えて行動をしてくれる人がいないかと声をかけ、集まった人たちと話し合い、そこから3月の小金井市議会に陳情したり、「～明らかにする会」の根本山幸夫さんを招いて PFAS 学習会を開催。「小金井の水連絡会」を発足しました。市民活動はする気はなかった (笑) んですが、今後長くかかる環境汚染だと思い、やらざるを得なくなったという感じです。

Q2 健康被害と規制値について

これまでの主に欧米での調査・研究から、PFAS は免疫力低下、脂質代謝異常、胎児や子どもの発育障害、腎がんなどの関連が指摘されています。

多摩地域住民の PFAS 血中濃度は、ドイツや米国で設定された、健康影響リスクが高まるガイダンス値を超える例が多く、衝撃が走りました。PFAS の血中濃度は病院では検査できず、市民団体と京都大学との協働で実現した血液検査は大変貴重なエビデンスです。

水道水の濃度の指針値は各国で様々ですが、世界的にはより厳しくなる傾向にあります。

日本	50ng/L PFOS・PFOA 合計値 (海外の数値を参考に設定)
アメリカ	4ng/L PFOS・PFOA 各々 (2023年末までに最終決定される予定の案。現在は PFOS・PFOA 各々および合計値 70ng/L)
ドイツ	100ng/L PFOS・PFOA 各々 (国内法適用までの暫定的な指針値)
WHO	現在目標値無し (PFOS・PFOA 各 100ng/L を提案中。各国においては経済状況、技術力によりこの目標値に限らず可能な限り低くするべきと忠告)

日本においても、まずは自国の汚染の実態を調べることで、自国の指針値を設定していくことが大切です。

Q3 汚染源の特定は可能か

多摩地域の水質調査、沖縄や多摩地域の血液検査を行ってきた

京都大学の原田浩二准教授や小泉昭夫名誉教授によると、横田基地周辺の井戸、多摩地域の住民から高濃度の PFAS が検出されている状況からも横田基地が汚染源の一つであることは疑いの余地はないが、汚染源特定には自治体・国レベルでの大規模な調査が必要とのこと。



▲左から、小泉昭夫 京都大学名誉教授、原田浩二 京都大学准教授、「明らかにする会」事務局 (IWJ撮影、2023年6月8日)

Q4 私たちができること

血液検査を受けて、息子の数値が私より高かったことに驚きました。女性

性は月経がある間は、男性より排出されやすいそうです。でも、小金井にいる時間の長い20代の息子は、私より小金井の水を飲んできた。私よりため込んでいる。今後どうなっていくのだろうと心配です。この先50年、100年以上、次世代にわたる可能性の高い問題だと思う。だからこそ、問題が大きすぎるからと、あきらめモードになるのではなく、コツコツと自分たちができること、例えば自分たちの住む自治体へ、PFAS 対策への取り組みなどを継続して要望したり市民へ呼びかけたり、が大事なのかな、と思っています。何ができるか一緒に考えて行動してくれる人が一人でも増えていくといいなと思っています。

三多摩労働者センター

「市民自治こがねい」は、「三多摩労働者法律センター」の会員になっています。無料労働相談・生活法律相談（弁護士が対応します）ができますので、ご利用ください。

センターの HP

<https://roho-center.jp/roho-santama/index.html>

相談はメールでなく、直接電話でどうぞ

070-3961-8989 / 042-3251371



総会報告

3月5日（日）、「市民自治こがねい」の総会をオンラインで行いました。参加者は10名。運営委員会で検討し総会に提案した「10の提言2023」についても、話し合いました。詳しい内容については、ホームページにアップ（4月9日付）してありますので、どうぞご覧ください。感想・連絡など会のメルアド、shiminjichik@gmail.com もご利用ください。もちろん、フェイスブックやツイッターもご活用ください。

「ちょっと Chat」 報告

小金井市議会 YouTube 配信を見ながらみんなで発言骨子をメモってみよう！ということで始まった「ちょっと Chat」。回を重ね、4月には第4回が行われました。参加したことのあるメンバーを中心にライングループ「ちょっと Chat ひろば」もできました。参加のお誘いはホームページ・フェイスブック・ツイッターでお届けしますので、お気軽にご参加ください。報告もその都度アップしておりますので、どうぞご覧ください。

シンポジウム

「小平の玉川上水の自然が危ない」に参加して



小平の都市計画道路（小平 328 号線）は、玉川上水が分断される計画で、小平の自然破壊と密接につながっています。このシンポジウムは小金井の道路問題と共通すること多いと思い参加してきました。

まず、この道路問題にずっと関わってきた水口和恵さんから「住民投票 10 周年に改めて 328 号線計画を考える」と題して、これまでの経緯や道路建設について問う住民投票のことについて話がありました。複雑な思いを経て、それでもあきらめずに活動が続けていることがよく分かりました。次に、高槻成紀さんが「小平の自然の豊かさと道路による分断の影響」ということで、研究データを示しながら、道路建設が玉川上水の生物多様性や自然環境に重大な影響があることを熱く語られました。

そして、ゲストとして関野吉晴さんと國分功一郎さんも登壇、その後、今後の活動の方向性などについて意見交換の時間もあり、とても参考になりました。詳しい報告は、はけの自然と文化をまもる会（はけ文）の FB にもありますので、ご覧ください。（はけ文：佐藤）



会員を募集しています
&カンパ大歓迎

- 会費 1 口 = 3000 円 / 年
- 賛助会員 1 口 = 1 万円 / 年
- ニュースカンパ 1 口 = 1000 円 / 年
- 郵便振替 00130-6-352041
市民自治こがねい



市民自治こがねい 🔍 で検索!

<https://www.sijiko.com>

編集後記

新型コロナウイルス感染症が、5 類に移行した直後、罹患しました。移行したと言っても、かかりつけ医は発熱外来での予約診療のみの対応で、その予約も取れず、受診できる医者を探すのに四苦八苦。あれだけ注意していたのに罹ってしまった、何が悪かったのだろうとメンタルのダメージが強く、活動や家庭のモロモロを投げ出したい気分が続きました。ヤッパリ運動不足だったのかな～ (M.S)

「市民自治こがねい」とは…

この小金井が、ひとりひとりの人権が尊重され、だれもが生き生き暮らし続けられる町であってほしい、この小金井を自治が息づく町にしたい。そのために市民自らが発信し、行動し、市政のあり方を変え、町づくりを進めていこう—そんな共通の思いをもつ市民たちのあつまりです。